

## (6) ことばの教育

### ことばの教育推進計画

#### 1 実態

話す・聞く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手を意識した話し方ができにくい。</li> <li>・自分の考えを簡潔にまとめて伝えることができにくい。</li> <li>・聴く姿勢がしっかり身に付いていない。</li> </ul>
書く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを順序立てて、相手に分かりやすく書くことが難しい児童がいる。</li> </ul>
読む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章問題の内容や題意を読み取ることが難しい児童がいる</li> </ul>

#### 2 目標

次のような「ことばの力」を育成する。

◎ 日常生活に必要な「ことばの力」を定着させる。

**「聴く」「読む」「話す」「書く」技能を習得**

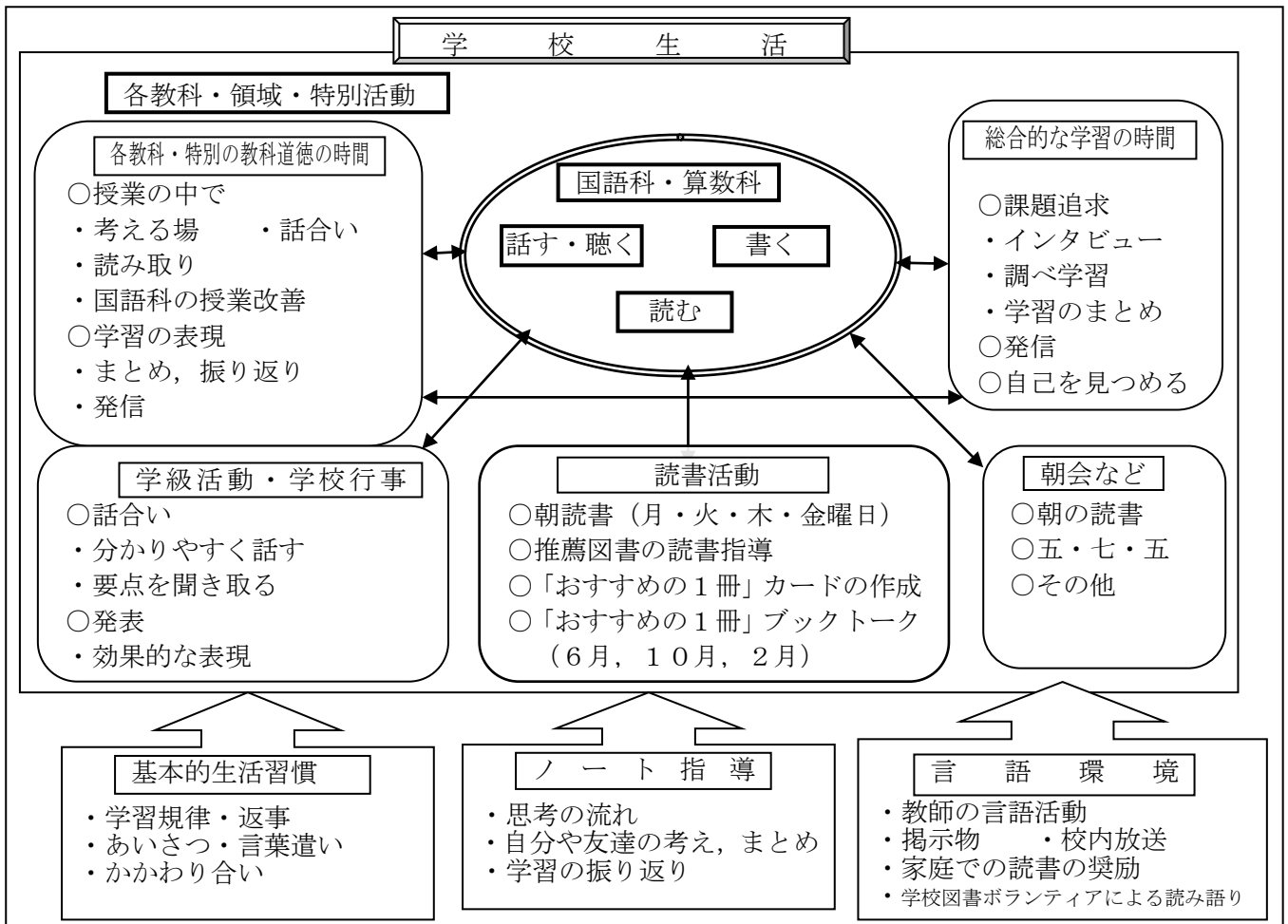
- ① 事実を正確に分かりやすく伝える。
- ② 場面や目的・相手に応じて適切に伝える。(必要に応じて図や表などを使って説明する。)
- ③ 聴いたり、読んだりしたことを確実に理解する。

◎ 学習や社会生活、人生を豊かにする「ことばの力」を育成する。

**「考える」「感じる」「表す」能力を開発**

- ①筋道を立てて考え、論理的に表現する。
- ②感受性を働かせ、感情を込めて表現する。
- ③ことばの豊かさを味わい、自ら豊かに表現する。

#### 3 構想図



## 4 指導方針

- ア 国語科・算数科を核として、言語の基礎基本の力を育成し、主体的な学びとなるようにする。
- イ 各教科，特別の教科道徳の時間においては，学習のねらいにそって適切な目的意識・相手意識をもたせ，適正に言語活動が行われるように指導する。不十分な点については国語科等で取り上げて指導していく。
- ウ 総合的な学習の時間や生活科においては，言語活動が生かされる場としてとらえ，実際の場においてどんな言語を用いるか具体的に指導していく場とする。
- エ 学校行事，朝会等においては，相手に伝えることを意識させ，声の音量や速さなどに注意させる。
- オ 読書活動の活性化を図り，朝読書を中心に，設定された各学年の読書目標を達成に向けて個人で取り組ませる。各学年推薦図書を紹介し，必ず読み切ることができるように計画的に取り組ませる。また，「おすすめの1冊」カードの作成，「おすすめの1冊」ブックトークを行い，「読むこと」「書くこと」「聴くこと」の技能が高まるように評価を意識的に行い，次の意欲につなげる。
- カ 日常生活においては，コミュニケーションの手段として，適切な言葉遣いを行うよう指導する。
- キ 「ことばの力」は，学習・生活両面での基礎となる力であるため，児童の課題を踏まえ，「読む・聴く・話す・書く」といった基本的な技能や，「ことば」を通して，児童に「論理的思考力」「表現力」などをより効果的に育成しながら，「知・徳・体」の基礎・基本の徹底を行う。他教科との関連を図り，全教科・領域を通して取り組んでいく。
- ク 大崎小タイムにおいて，中学年以上は活用題を中心とした課題に取り組み，新しい文章を読み取ったり，論理的に文を書いたりする力をつける。

### ◎重点的な指導内容

<p>低学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本の読み聞かせを多くし，感性を培う。</li> <li>・いろいろな表現やことばのリズム等の楽しさを味わわせる。</li> <li>・自分の考えを書き，友達に説明する力を育成する。</li> </ul> <p>中学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域探検等の活動を充実させ，感性を育てる。</li> <li>・音読や群読で表現する喜びを味わわせる。</li> <li>・自分の考えや思いを分かりやすく書き，自分の考えの根拠を明らかにして話をする力を育成する。</li> </ul> <p>高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞等を読んで思ったことを書き，発表することにより，社会や自分について考えさせる。</li> <li>・俳句・短歌づくりにより，表現する楽しさを味わわせる。</li> <li>・友だちの考えと自分の考えを比較し，互いの考えを深め高め合う力を育成する。</li> </ul>	<p><b>【聴く力】</b></p> <p>低学年</p> <p>自分の考えと同じかどうかを考えながら</p> <p>中学年</p> <p>自分と比べてどこが違うか考えながら</p> <p>高学年</p> <p>よいところ，直した方がよいところはどこか考えながら</p>
---	--

## 5 基礎となる言語環境

- 教師は正しい言語で話し，黒板などに正確で丁寧な文字を書くこと。
- 校内の掲示板やポスター，児童に配布する印刷物において用語や文字を適正に使用すること。
- 校内放送や朝会において，適切な言葉を使って簡潔に分かりやすく話すこと。
- 適切な話し言葉や文字が用いられている教材を使用すること。
- 教師と児童，児童相互の話し言葉が適切に行われるような状況をつくること。
- 児童が集団の中で安心して話ができるような教師と児童，児童相互の好ましい人間関係を築くこと。